

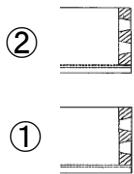
「お寄せいただいたご質問に回答するため、あらためて競技課題を1台製作しながら、加工方法や全体の流れ等に不備がないかを精査いたしました。今年度の課題は、治具の持ち込みや審査方法が前年度から大きく変更されています。公表されている競技課題、図面、競技上の注意等とあわせ、以下の各項目を確認してください。」

NO.	質問内容	回答内容
Q1	競技場設備基準表の角のみ盤の項目に6mmのキリとありますが、競技課題図面では6mmキリではないように思えるのですが6mmでよろしいのでしょうか？	職種競技場設備基準（I）の記載漏れです。正しくは、6.0mm、9.0mm、9.5mmのキリを会場に用意します。競技前日の説明の際に、出場選手のリクエストを確認して対応しますが、予定では2台の角のみ盤のうち1台に6.0mm、もう1台に9.0mmを取り付け、競技開始後は、選手の要望に応じて競技委員の方で適宜キリの付け替えを行う予定です。
Q2	引き出しのクリアランス0.5mmとありますが、箱の内寸、引き出しの内寸が表示されています。どこでクリアランスをとればよろしいでしょうか？	クリアランス0.5mmと箱の内法寸法を優先し、引き出し側板厚さ「12mm」の部分で調整してください。
Q3	競技時間に製作する治具の材料は、木材以外の材料(例えば合板、プラスティック、金属など)も持ち込むことは可能でしょうか？	可能です。
Q4	持ち込む治具用材の寸法規定はありますか？	治具用材の寸法については、上限ならびに下限、いずれも特に規程は設けていません。ただし、治具製作に持参のスライド丸のこを使用することを考えている場合は、安全な機械加工が行える寸法に留意してください。
Q5	接着後審査において接着剤のはみ出しを確認するとありますが、その意味は、接着剤をきれいに拭き取るということか、または接着剤をはみ出るくらいに塗布しなさいということのどちらでしょうか？	接着剤をきれいに拭き取ることを要求するものです。
Q6	側板の付け縁の長さ580ということは正しいでしょうか？	650に変更いたします。本回答とあわせて、公表「支給材料」を差し替えますので、あわせてご確認ください。
Q7	地板の付け縁の厚さ24というのは正しいでしょうか？	地板付け縁は、溝加工を施す上端を材の幅方向としています。そのため、厚さを24mmとして支給します。
Q8	<支給材料について> 箱部の付け縁(側板)長さ580mmとなっていますが、二等分した場合、のこぎり幅を差し引くと、1枚の長さが290mmを切ってしまいますが、この寸法は正しいのでしょうか？	650に変更いたします。本回答とあわせて、公表「支給材料」を差し替えますので、あわせてご確認ください。
Q9	<脚部頭頂部の埋木部分について> この部分は接着剤による接着のみの接合と考えてよろしいでしょうか？選手の判断で、表面に出ない仕口加工を施した場合、減点、又は失格になるのでしょうか？	当該箇所は、接着のみの接合を想定していますが、選手判断で表面に出ない仕口加工が施されていても減点や失格の対象とはなりません。

NO.	質問内容	回答内容
Q10	<p><保護メガネの着用について> 近視や遠視又は乱視等で普段から度付き眼鏡を常用している者も、度付き眼鏡の上から保護メガネを着用しないと減点になるのでしょうか？ 場合によっては、逆に見えにくくなり怪我をしやすいとか、機械操縦中に落下したりして危ないということも予想されると懸念します。</p>	<p>近視や遠視、乱視用などの眼鏡を着用している場合は、眼鏡のツルに直接取り付けるタイプのサイドシールドを装着することで、保護メガネ着用相当とみなします。眼鏡の上に保護メガネを着用することも認めます。</p>
Q11	<p>競技課題 2. 注意事項および仕様(12) 蟻型定木とは、どの様な物を指すのでしょうか？</p>	<p>墨付け等で使用する勾配付きの定規をさしています。添付写真は一つの例です。 ただし、複数の蟻型を一度に墨付けできるテンプレートのようなタイプは持ち込みを認めません。</p> 
Q12	<p>競技課題 3. 支給材料 原寸図用合板が支給されますが、原寸図は書いて提出する必要がありますか？</p>	<p>今回の課題では、最終的な提出物として原寸図は求めていません。支給材料一覧では「原寸図用合板」としていますが、選手判断で、治具用材に使用することも認めます。</p>
Q13	<p>競技課題 3. 支給材料 箱部付け縁(側板) 長さ580mmとなっていますが長さが足りないのではないかでしょうか？</p>	<p>650に変更いたします。本回答とあわせて、公表「支給材料」を差し替えますので、あわせてご確認ください。</p>
Q14	<p>競技課題 3. 支給材料 箱部付け縁(側板)の幅を削るのは、箱加工時と共に機械加工を行ってもよいでしょうか？</p>	<p>「競技場の注意（前年度大会からの変更点など）」10-③の説明のとおり、箱部については、選手が手を挙げて申し出たタイミングで、選手の作業エリアに委員が出向き、JBG審査（接着前審査）を行います。ただし、地板については、切り回しに先行して、付け縁（地板）の加工ならびに地板（化粧MDF）へのビスケット接合を行いたいという選手もいると思われます。その際には、まず地板と地板付け縁のビスケット接合（接着）を行うタイミングで、手を挙げて申し出て、地板部のJBG審査を受けてください。この流れで付け縁を矧ぎ合わせた地板を、他の箱部板材とあわせて機械加工することに問題はありません。なお、地板部だけJBG審査を先行して受けた場合も、箱本体のJBG審査を省略することはできませんので、注意してください。</p>
Q15	<p>競技課題図 A-A断面 左側の表示「21」の寸法の意味が不明です。</p>	<p>箱部左側板の厚さを示す寸法ですが、寸法の向きが誤っていました。本回答とあわせて、公表図面を差し替えますので、あわせてご確認ください。</p>

NO. 質問内容	回答内容
Q16 競技課題図 C-C断面 脚部長方形に寸法が載っていませんが、図面のようにすればいいですか？	脚部の左右貫と脚の接合は図面通り「二方胴付ほぞ接ぎ」としてください。ほぞの割り付け寸法（ほぞの厚み寸法）は選手判断としています。
Q17 埋木は足と箱の接合する時に埋める物でしょうか？	なお、職種競技場設備基準（I）の角のみ盤の項目に記載漏れがありました。「6mmキリ箱のみ付き」という注記がありますが、正しくは、6.0mm、9.0mm、9.5mmのキリを会場に容易します。競技前日の説明の際に、出場選手のリクエストを確認して対応しますが、予定では2台の角のみ盤のうち1台に6.0mm、もう1台に9.0mmを取り付け、競技開始後は、選手の要望に応じて競技委員の方で適宜キリの付け替えを行う予定です。
Q18 治具の数量に決まりはありますか？ ビス、釘とかは持つて行っていいでしょうか？	JAG審査（接着後審査）を終えた箱部と脚部を接合する際に埋める物です。
Q19 競技課題 3. 支給材料 箱部 付け縁(側板) 支給材の長さは580mm(本数2本)となっていますが、この通りで間違いないでしょうか？ 中心で45°にカットすれば、ぎりぎり規定寸法で製作することは可能ですが、そのように工夫をしてしようすべきということでしょうか？	持参する治具用材の数量に上限は設けていませんが、競技前日に選手が持参した道具類を確認する際に、あわせて持ち込み治具用材をチェックします。チェックを受けて許可された物だけが使用できます。ビスや釘の持ち込みも認めますが、課題の支給材料と異なる物としてください。
Q20 持参工具「小型集塵機の使用について」 フェスツールのスライドソー、テーブルルーターを持参する予定ですが、オプションの集塵機も持参したいと考えております。 切削量の多い作業を予定しており、選手の安全衛生の面から集塵機を使用したいと考えているのですが可能でしょうか？	650に変更いたします。本回答とあわせて、公表「支給材料」を差し替えますので、あわせてご確認ください。
Q21 「箱部の内寸」について 箱は、仕切り板があって、その右の内寸は329mm、引出しの内寸は305mmと記載されております。引出しの側板の厚みは12mmです。 この3つの数字を守ると、引出し左右に0.5mmのクリアランスをとれないのですが、どの数字を優先すべきでしょうか？ また、「仕切り板」が箱部の中央に位置していた方が、引戸との収まりが良いと思うのですがいかがでしょうか？	小型集塵機の持参、使用は可能です。
	クリアランス0.5mmと箱の内法寸法329mm、引き出しの内寸305mmを優先し、引き出し側板厚さ「12mm」の部分で調整してください。仕切り板の位置に関しては、今回は箱の内寸に0.5mmが出ないことを優先させました。従って、すでに公表されている図面の寸法でお考えください。

NO.	質問内容	回答内容
Q22	<p>「加工法」について 注意事項および仕様(11)は、大入れ蟻接ぎだけが手加工必須であって、左右貫のほぞ加工は、機械加工も可という解釈でよろしいですね？文脈からそのように読み取れるため、確認の意味で質問させていただきました。</p>	<p>大入れ蟻接ぎだけが手加工必須箇所です。左右貫のほぞ加工は機械加工が可能です。</p>
Q23	<p>「現寸図用合板」について 脚部現寸図用合板は、現寸図描画後、提出の必要がありますか？もし、提出の必要がないのなら、現寸図による墨付けが終わった後、この合板を治具用材料として使用してよろしいでしょうか？</p>	<p>今回の課題では、最終的な提出物として原寸図は求めていません。支給材料一覧では「原寸図用合板」としていますが、選手判断で、治具用材に使用することも認めます。</p>
Q24	<p>「市販補助工具の持ち込み」について 脚部、前後左右幕板の木口へのだぼ穴穿孔用に、「株スターエムのワンタッチドリルスタンドNo. 50」など、市販の補助工具を持ち込んで使用してもよろしいでしょうか？</p>	<p>だぼ穴穿孔用として、市販のドリルスタンド、だぼ穴ガイドを持参し、使用することを認めます。</p>
Q25	<p>Q7の質問と同様の質問になりますが、地板の厚み21mmに対して、付け縁の厚み24mmということは、幅29mm、厚み3mm分を鉋や電動工具、機械で削るということでしょうか？</p>	<p>21mm厚の地板との目違いを鉋等で切削してください。 尚、競技場設備基準（I）にある昇降丸のこ盤や横切り丸のこ盤を用いた切削（材を木端立てての切削）は不可とします。 又、目地払い機（例：ラメロ社のCantex Ergo）や電動リンナの持ち込みも不可としています。</p>
Q26	<p>引き戸の上下ほぞ部分は、JBG審査後に組み立ててからの加工でよいでしょうか？</p>	<p>組み立て後（接着後）の加工で問題ありません。</p>
Q27	<p>地板の付け縁以外の縁を接着する際には、JBG審査を受ける必要がありますか？</p>	<p>「競技上の注意」10-③にある通り、箱部のJBG審査では、所定の位置にビスケットが入れられているかを委員が確認します。したがって、ビスケット溝を加工しない付け縁については、JBG審査は受ける必要はありません。</p>
Q28	<p>箱部の本体組立を2回または3回に分ける場合は、JBG審査の為、その都度委員の方の立ち会いが必要でしょうか？ また、組立を分ける時は、組立を行う部材部材以外の加工はしないまでも審査を受けることは可能でしょうか？</p>	<p>「競技上の注意」10-③にある通り、箱部のJBG審査では、所定の位置にビスケットが入れられているかを委員が確認します。そのため、接着を複数回に分ける場合は、その都度、委員の立ち会いが必要となります。なお、組み立てを分ける際、JBG審査を受ける箇所以外の加工が未完了でも問題ありません。</p>
Q29	<p>箱底板の付け縁を接着する際に、JBG審査を受けるということですが、その時に△の勝手墨は必要でしょうか？ また、その他部材でもすべてに△の勝手墨が必要でしょうか？</p>	<p>箱部のJBG審査は、選手がエリア内で接着作業を行っている様子を委員が確認します。したがって、部材を委員側に提出することはありませんので、地板、天板、側板、仕切り板、裏板に△の勝手墨は必ずしも必要ありません。</p>

NO. 質問内容	回答内容
Q30 C1終了時、箱と脚の組立でクランプなどの締め具をかけたままでもJAG審査を受けることが可能でしょうか？	可能です。なお、クランプ中のものについては、C1競技終了時刻から45分を経過したところで、JAG審査のため、競技委員・補佐員がクランプを外します。また、外したクランプの再圧締は行いません。
Q31 治具用材の寸法規定は無いということですが、間座として治具用板のみを使う場合、あらかじめ厚みや幅を決めて持ってきててもいいでしょうか？	あらかじめ、選手が使いやすい寸法にカットした木材や合板、アクリル系人工大理石等の小片を、間座（スペーサー）や端金用の当て木、サンディングブロックとして持ち込むことを認めます。ただし、溝加工や穴加工があらかじめ施されているものは持ち込めません。
Q32 抽斗の向板と側板の仕口は図面では、右記①の形状になっていますが、②の形状の間違いででしょうか？	 <p>側板と向板の通し五枚蟻組み接ぎの仕様は、前回大会課題(2018)と異なります。 公表されている課題図面(B-B断面図)のとおり製作してください。</p>
Q33 抽斗の内法寸法を優先し、側板厚さで調整するということは、抽斗側板12.5mmを11.5mmまで鉋で削るということでよろしいでしょうか？	引き出しの内法寸法を優先させた上で、クリアランス(上左右0.5mm)としますので、側板を11.5mmに削ることになります。
Q34 スライドソーについて安全作業の為、自社で製作したメモリのない拡張テーブルを取り付けてもよろしいですか？(1300×360程度)	取り付け可能です。材を安全にセットするための物と認められるスライドソー用拡張テーブルであれば、治具とは別の物として取り扱います。あらかじめスライドソーに装着した状態で競技をスタートしてかまいません。
Q35 引出しの手加工必須について、必須なので手道具を使用していれば、電動工具を使用し下穴を空けることは可能ですか？また足部の貫きの蟻加工も同様に使用可能ですか？(木工錐・トリマ等)	手加工必須としている箇所においては、電動工具の使用は認められていません。
Q36 墨付けの際、シャープペンシルは使用可能ですか？	今回の課題において、加工墨の審査は行いませんが、技能五輪全国大会の予選を兼ねて実施される技能検定2級(家具製作技能士・家具手加工作業)の実技課題で求められるのと同様の墨付け作業を行ってください。
Q37 C1(競技一日目)作業終了時点で脚部と箱部それぞれの、JBGならびにJAG審査を受けていれば、脚部と箱部の接着作業に関しては、C2(競技二日目)に行ってもよろしいのでしょうか？それに伴い、C1(競技一日目)作業終了時に脚部にクランプなどの締め具をかけたままでもJAG審査を受けることは可能でしょうか？	JBGならびにJAG審査を受けた脚部と箱部の接着作業は、C2(競技二日目)に持ち越して問題ありません。 C1(競技一日目)終了時のクランプについては、Q30でも回答しているとおり、締め具をかけたままの状態でC1の競技終了をむかえて問題ありません。ただし、クランプ中のものについては、C1競技終了時刻から45分を経過したところで、JAG審査のため、競技委員・補佐員がクランプを外します。外したクランプの再圧締は行いません。